R6-12　１日防災学校を活用した地域連携の推進

■管　　内　渡島管内
■分　　類　☑避難訓練　☐危険対応能力　☑防災訓練　☑その他（1日防災学校）
■教育課程　☑教科（地歴・数学・理科）☐道徳　☐総合的な学習の時間　☑特別活動
■校　　種　☐小学校（低）☐小学校（中）☐小学校（高）☐中学校　☑高等学校
■取組のポイント

１　高等学校と高等支援学校が連携した避難訓練の実施
２　保護者、地域及び防災関係者と連携した防災講演会及び体験会並びにワークショップの実施

■取組の実際

ねらい

○　学校間連携による避難訓練や防災学習を通して、避難行動の学習を行うとともに、互いの学校の生徒や地域住民が協働するための基盤づくりとなる取組を行う。

内　容

１　避難訓練の取り組み

(1) 学校間連携

校舎を共有する高等支援学校と連携した防災の取組を行った。災害を想定した避難訓練では、各校の状況に合わせた避難経路の設定、避難誘導を行い、教職員対象の合同防災研修会を開催した。

(2) 津波被害を想定した水平避難訓練

校舎は津波による浸水区域に立地し、浸水区域外の指定避難場所まで距離があることが課題の一つである。１日防災学校では、津波被害を想定した水平避難訓練を計画、実施した。

(3) 災害備蓄倉庫の見学、体験会の実施

災害時に自治体がどのように対応するかを知ることで、自身の備えを見直すきっかけとするために、自治体と連携し災害備蓄倉庫を見学した。担当者から自治体全体での備蓄量や資機材の種類について説明を受け、資機材の使用の体験をした。

【水平避難訓練の様子】

【災害備蓄倉庫の見学】

２　保護者・地域および防災関係者との連携づくり

(1) 防災講演会と体験会の実施

自治体の防災担当者、コミュニティＦＭ局のパーソナリティ、ＤＭＡＴ医師に講師による防災講演会を開催した。

(2) 「逃げ地図」ワークショップの開催

大学と連携して「逃げ地図」ワークショップを開催し、保護者や地域の方、防災関係者が生徒ともにグループをつくり、取り組んだ。地図を題材としたリスク・コミュニケーションが活発に行われ、生徒だけでなく参加者も防災意識が向上する取組となった。

【ワークショップの様子】

成果と課題

○　学校間、保護者、地域、防災関係者との連携の基盤づくりができた。また、生徒自身の積極的な活動や発想が促され、主体的に活動するきっかけづくりとなった。
●　活動を地域に浸透させるため、住民がより気軽に参加できる工夫が必要である。